

製品名: Krs-1/2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13132**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	56kDa

抗原情報

遺伝子名	STK3/STK4 STK3; KRS1; MST2; Serine/threonine-protein kinase 3; Mammalian STE20-like protein kinase
別名	2; MST-2; STE20-like kinase MST2; Serine/threonine-protein kinase Krs-1; STK4; KRS2; MST1; Serine/threonine-protein kinase 4; Mammalian STE20-like prot
遺伝子 ID	6788/6789
SwissProt ID	Q13188/Q13043
免疫原	抗血清はヒト Mst1/2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 149-198

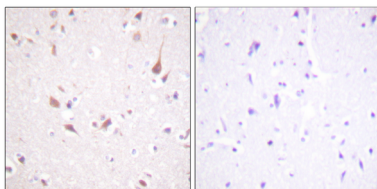
背景

セリン/スレオニンキナーゼ3 (STK3) ホモサピエンス この遺伝子は、アポトーシス促進分子によって活性化されるセリン/スレオニンタンパク質キナーゼをコードしており、コードされているタンパク質は増殖抑制因子として機能することが示唆されています。タンパク質産物はカスパーゼによって切断され、阻害性のC末端領域を除去します。N末端領域は核へ輸送され、そこでホモ二量体化して活性キナーゼを形成し、アポトーシス中のクロマチン凝縮を促進します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2012年1月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質、補因子: マグネシウム、酵素制御: C末端の非触媒領域によって阻害されます。カスパーゼによる切断によって活性化されず。完全な活性化には、Thr-180のホモ二量体形成と自己リン酸化も必要であるが、これらはプロトオンコジーン産物 RAF1によって阻害される。機能: ストレス活性化プロアポトーシスキナーゼ。カスパーゼ切断後、核内に侵入し、クロマチン凝縮とそれに続く核内DNA断片化を誘導する。NKX2-1をリン酸化(類似性による)。LATS1およびLATS2をリン酸化して活性化する。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。STE Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。STE20サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 1つのSARAHドメインを含む。細胞内局在: カスパーゼ切断型は、核と細胞質の間を循環する。サブユニット: ホモ二量体。コイルドコイル領域を介して媒介される。NORE1と相互作用し、自己活性化を阻害する(類似性による)。SAV1と相互作用し、安定化させる。RAF1と相互作用し、二量体化およびリン酸化を阻害する。RASSF1と相互作用し、酵素活性化を引き起こす。組織特異性: 成体腎臓、骨格、胎盤組織で高発現し、成体心臓、肺、脳組織では非常に低発現する。

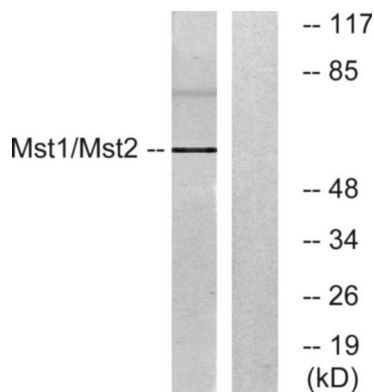
研究分野

MAPK_ERK_成長; MAPK_G_タンパク質;

画像データ



Mst1/2抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



UV 15°処理した HeLa 細胞ライセートの Mst1/2 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。